

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第5号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第5号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ（以下URL）にも随時公開しています
https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00323270/index.html

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R3 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R3 (hr)	平年比 (%)
6月	1	21.6	22.1	0.5	27.6	26.8	-0.8	16.7	18.2	1.5	21.8	56.0	257	25.9	13.8	53
	2	22.3			27.8			17.8			28.6			23.0		
	3	22.8			27.9			18.7			40.9			21.2		
	4	23.3			27.9			19.7			58.6			18.8		
	5	23.9			28.1			20.6			74.3			15.4		
	6	24.6			28.4			21.6			84.4			14.1		

○6月1半月の平均気温は、平年に比べて0.5°Cほど高く推移した。また、曇天が続き平年に比べて寡照傾向となった。

◀福岡管区気象台の1か月天気予報（6月3日発表）（予報期間 6月5日から7月4日まで）

暖かい空気に覆われやすいため1週間の気温は平年並か高くなりますが、向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込みです。向こう1か月の降水量と日照時間は、ほぼ平年並でしょう。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：6月6日）

項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎数 本/m ²	主 稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
コシヒカリ	本 年 値	63.7	721	11.5	39.4	・草丈は平年に比べ高く、茎数は多い。
	平 年 値	59.0	634	11.5	39.3	・主稈出葉数は平年並み。 ・葉色は平年並み。
	平年比（差）	108	114	±0.0	+0.1	・幼穂長 0.5～1mm程度 ・幼穂形成始期 6月7日頃

※ 平年値は、H21～R2年度の平均値 耕種概要は稲作情報NO1参照

（管内の生育状況）

○現在、生育ステージは、幼穂形成期を迎えている。

○強い中干し後、急に湛水状態に移行した圃場において、根痛みによる葉先の黄化を確認している。

（かなり土壌表面が白乾した圃場にて確認している）

3. 今後の管理

（1）水管理

・「コシヒカリ」は、幼穂形成期を迎えている。

幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期であるが、湛水を長く行くと根を傷める場合もあるので、引き続き間断灌水を行う。ただし、幼穂形成期以降に、手のひらが縦にはいるようなヒビ（土壌表面が白乾状態になる）は、強い断根を伴い稲にとってダメージが大きくなるので行わない。

(2) 肥培管理

- 情報田の生育状況から判断すると、出穂前26日頃と推定される。
- 穂肥施用の目安は、幼穂長15mmの時（出穂前18日頃）に群落葉色が3.3~3.7程度（36.0~39.5）まで低下したら、ゴールド有機50を10kg/10a施用する。
必ず穂肥診断を行い、幼穂長と葉色の状況を確認し下記の葉色診断基準を参考にする。
ただし、いもちの病斑が上位3葉以内にある圃場では、穂肥で窒素濃度が高まり降雨が続くと、「いもち病」の好適発生条件となるため、穂肥施用量は減ずる。

表1 コシヒカリの出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	26	23	20	18	15	12
幼穂形成始期からの日数	0日	0~3日	3~6日	6~8日	8~11日	11~14日
幼穂長(mm)	1mm	1~3mm	8~12mm	15~20mm	25~30mm	30mm以上
草丈(cm)	~72cm	~75cm	~78cm	~80cm	~83cm	~
穂肥の施用時期				←→		

例) 幼穂長15~20mmの時（出穂前18日頃）が穂肥施用時期であるため、穂肥診断した時の幼穂長が1mmの場合、その5日後に穂肥を施用する。

【穂肥診断の方法】

- ① 幼穂形成始期頃の草丈を測る。
 - ② 葉色（群落・SPAD値）を測る。
 - ③ 上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
 - ④ 施用量が確認できたら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ※穂肥施用できるのは、葉色が「笹の葉色以下（3.5以下）」になってからである。

表2 穂肥診断基準

	葉色	葉色板		SPAD (値)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	施用量 <ゴールド有機50>
		群落	単葉				
穂肥 施用時	薄い	3.0以下	3.5以下	34.0以下	2	75まで	15Kg/10a
		3.0~3.3	3.5~3.8	34.0~36.0	5	78まで	
	標準	3.3~3.7	3.8~4.2	36.0~39.5	15	80まで	10Kg/10a
	濃い	3.7以上	4.2以上	39.5以上	—	80以上	施用しない!

例) 穂肥施用時期の葉色（SPAD）が36.0~39.5、草丈が80cm以下であれば、ゴールド有機50を10kg/10a施用する。

(3) 病虫害防除

- ・「七タコシヒカリ」は県特別栽培農産物に応じた栽培を取組んでおり、農薬成分回数9成分を超えないような栽培管理が重要である。そのためにも、まずは病虫害が発生しにくい環境づくりのための耕種的防除（置き苗除去、過剰分けつ抑制のための適切な水管理、畦畔除草管理等）を行う。
- ・今後、長梅雨が続くことで「いもち病」や「ウンカ類」の多発生が6月末以降予想されるので発生状況を把握した防除が重要となる。

① 葉いもち病

- ・補植用の『置き苗』は、葉いもち病の発生源になるため、すぐに除去する。

②ウンカ類

- ・ 本年は、平年に比べ20日早い梅雨入りとなり、梅雨前線に伴い海外飛来性害虫であるウンカ類が確認されている。(表3参照)
- ・ 5月末から水稻の株元にセジロウンカの産卵痕を確認している。25株はらい落とし調査結果は以下のとおりである。(表4参照)

現在、防除等は必要ないが、今後の発生状況に留意する。

《表3 海外飛来性害虫(トビイロウンカ・セジロウンカ)誘殺状況》 佐賀県農業技術防除センターHP参照

	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ			
	佐賀県			長崎県		佐賀県			長崎県		佐賀県			長崎県
	佐賀市 ネット	佐賀市 ライト	嬉野 ライト	諫早 ライト	諫早 ネット	佐賀市 ネット	佐賀市 ライト	嬉野 ライト	諫早 ライト	諫早 ネット	佐賀市 トラップ	白石 トラップ	武雄 トラップ	諫早 トラップ
5/11	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	-			
5/12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-			
5/13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-			
5/14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-			
5/15	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	-			
5/16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-			
5/17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-			0
5/18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-			0
5/19	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	-			0
5/20	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	-			0
5/21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-			0
5/22	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	-			0
5/23	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	-			0
5/24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-			0
5/25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-			0
5/26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-			0
5/27	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1			0
5/28	0	0	0			1	0	0			0			
5/29	0	0	0			0	0	0			0			
5/30	0	0	0			0	0	0			0			
5/31			0					0			0			

《表4 管内におけるウンカ類の払い落とし調査結果》

調査日	セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
6月3日	21	2	0	0	13	3	コシヒカリ(白石町) ※箱施薬剤無施用

※25株払い落とし総数を記載。

③斑点米カメムシ

- ・ 斑点米カメムシによる被害を軽減するために畦畔雑草の除草を水稻の出穂15日前(6月20日)までに終わらせる。

特に斑点米カメムシは、イネ科雑草を好むことから圃場内に発生しているヒエ等の除草も併せて行う。

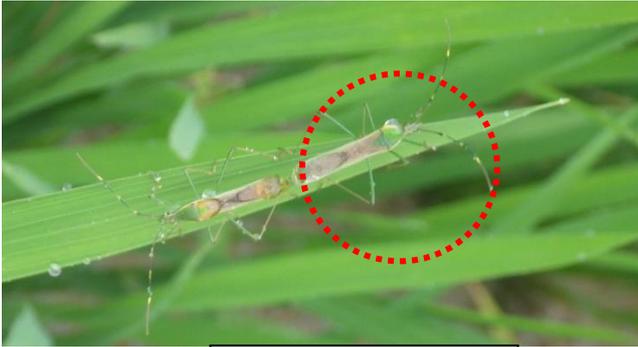
畦畔を100mあたり歩いて3頭いたら、要注意である。



エノログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処となっている

《表5 斑点米カメムシの20回すくい取り調査結果》

地区	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		ミナミアオカメムシ		アカスジカスミカメ		シラホシカメムシ	
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
須古(畦畔)	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
須古(畦畔)	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

5. 普通期水稻の育苗管理

- 本年は、育苗期間が気温が高く推移したことで、被覆資材の除去が遅れたところでは苗丈が伸長し、軟弱徒長ぎみの苗となっている。特に夢しずくは露棚ができるような、うっぺいした状態の苗では、いもち病斑を確認している。
今後の天候次第では、他の品種でも「いもち病」の発生が懸念されるので、発生状態が甚だしい場合は、薬剤防除による対応を行う。
- 今年の麦類は平年より収量が多く、麦わらの量も多い。
麦わらすき込みを行った圃場では、ガスのわきが予想されるので、初期生育を促進するため、移植前日までに窒素成分で0.5g～1g/箱の弁当肥を施用する。